

朋友

第26号

 2021 (令和3) 年
3月31日発行

発行所

 京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 倉石 功

「朋友」とは、同信のなから。
2008 (平成20) 年4月の仏教
壮年会連盟発足にあたり、
仏壮会員が力を合わせ、とも
に歩みを進めていこうという
願いから名づけられました。

遠 慶 宿 縁

仏教壮年会連盟

 理事長
倉石 功


このたび、令和2年10月3日の評議員会におきまして、仏教壮年会連盟理事長に就任させていただきこととなりました、北豊教区京仲組傳因寺門徒の倉石功と申します。どうぞよろしく願い申しあげます。

仏教壮年会の皆さま方には平素より大変お世話になっております。また、壮年会活動にご尽力いただいております全国のご関係者の方々は、厚く御礼申しあげます。

わたしは、父の法事をきっかけに仏教壮年会との関わりを持たせてい

ただきました。住職さんから「お寺へ一度遊びに来ないか」とお声をかけていただいたのですが、当時はまだ50歳前で、「お寺なんか」という気持ちがあり、お寺に行こうなんて全く思ってもいませんでした。

しかし、住職さんの何とかお寺に来てほしいという熱意についつい引き込まれ、最後まで話を聞くことになりました。その話とは、お寺には色々な仕事をなさっている人が集まり、皆が仲間となつて仏様のお話を聞き、お寺の行事等のお手伝いに励

んでいますよ。また、地域のお寺さんと合同で行事や研修会等へ参加し、朋友との出遇いを大切にして、共に仲間づくりの輪を拡げる「仏教壮年会」という集まりがありますよというお話でした。

住職さんの熱心なお誘いもあり、また多少なりとも興味がわいてきましたので、勉強になるならと思いい、山門をくぐってみました。

その後、お寺の水があつたのか、はたまた出遇つた朋友が真の友であつたのか、お寺へ通うようになり、行事等のお手伝いや仏壮活動に参加していくこととなりました。

やがて、組・教区の大会や研修会、また行事等に参加させていただく機会に恵まれ、己の研鑽、またお寺のお役に立てればと、今後も積極的に参加して行こうと決意を致しました。

そして、多くの朋友、本音で語り合える朋友に出遇えることになったわけであります。

このことは、わたしの仏壮活動における原点であり、このご縁はわたしにとつて大きな財産であると確信致した次第であります。

また同時に、所属寺やその周りの

お寺さんへ法要の都度お参りさせていただき、お聴聞に勤しむことを心がけている日々の暮らしでござい

ます。
真宗門徒として、み教えに学び、お念仏を慶び、お聴聞に勤しむことを旨とし、仏教壮年会活動におきましても同様の志を持って、組織の充実と拡大に向けて努めて参る所存でございます。

ところで、壮年会活動の現状を振り返ると、組織の充実と新たな寺院仏壮の結成に取り組んではいるものの、活動は停滞・衰退の一途をたどっており、厳しい現実に直面しています。

この状況を打開していくには、壮年会活動の原点に返り、壮年会の本分であります「お聴聞」を大切にし、多くの仏壮世代の方にみ教えに出遇っていただく機会を作り、一人でも多くの朋友が集うことこそが肝要なのではないでしょうか。

「お寺には仏壮が必要だよ」と言っていただけの活動を展開しようではありませんか。

み教えを拠り所とする壮年会です。朋友の輪を拡げてまいりましょう。

合 掌

仏教壮年会連盟 各種委員会委員長紹介

仏教壮年会連盟 副理事長
組織拡充委員会 委員長

岐阜教区 森 久元



ピロピロピロ。ピロピロピロ。誰だっ？登録していない電話番号。北豊の倉石です。この電話から仏教壮年会副理事長の道が始まります。いいえ私では荷が重いです。

何度かのやり取りの末、足を引っ張ることがあるかもしれませんが、全身全霊を持って引き受けたいと思います。それでも、俺でいいの？大丈夫か？自問自答が続きます。

そして評議員会当日、倉石理事長から「組織拡大、充実は非常に大事な委員会です。組織拡充無くして今後の仏教壮年会の発展はありません。そこで是非とも組織拡充委員会の委員長をお願いします。エーッ？」

組織拡充委員会(拡大担当・充実担当)委員長の岐阜教区評議員森久元です。宜しくお願いします。

元来であれば、前任の方達のやり方を継承していく予定でした。が、このコロナ下では只指を働かせてみているだけ。

お寺に行けない。研修会に行けない。住職も呼べない。壮年会の方々と会えない。密にはなるな。ソーシャルディスタンスを取ってください。ご葬儀は密葬で執り行います。宗教活動をしてはいけないといわれているようなものです。

この閉塞感の中でできることは無いから？リモート会議。これだ！このシステムを使えば一瞬にして世界中の人とつながることができる。ですが、この状況下では拡大は見込めません。ならば、拡充に重点を置き会員の皆様の充実を図っていく。ピンチをチャンスに変えるべく皆様と

一緒に叡知を出し合いこの難局を乗り越えましょう。必ず道は開けることでしょう。合掌

研修委員会 委員長

兵庫教区 戸田 勲



兵庫教区評議員(2期目)で、研修委員長を拝命いたしました。戸田勲です。宜しくお願いいたします。

さて、私たち研修委員の大切な役割である「中央研修会」を2月14日(日)にオンラインで開催し、42名の参加をいただきました。このコロナ禍の中、しかも初めてのオンライン研修で、心配ばかり先立ちましたが、42名の参加。有難かったです。

今回のテーマは、「今、仏教壮年会に求められるもの」災害時、困った時はお互いさんや」で研修いたしました。研修委員3名が活動報告を行い、まず熊本教区の陣内委員が令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた熊本県人吉市などでの支援活動を報告。福井教区の夏目委員は東日本大震災で教化団体と連携した活動を報告。私は、今、兵庫教区で取り組んでいる災害時のボランティア救援・支援態勢作りについて話しました。

質疑応答の後は、4班に分かれて班別話し合い。流石ご門徒さんですね。たくさんの方がボランティア活動に参加されていました。

そして多くの率直なご意見(本音)をいただきました。その中で「年を取ってもできる支援はあるよ！3か月に1度、お茶菓子を持って被災地の茶話会に参加します」との発表がありました。ほぼ10年その活動を続けていらつしやるとのこと。もう友人、まさに「朋友」だと感動しました

た。3か月後がお互い楽しみです！

「中央研修会」の参加者は、今まで各教区より2名としてきましたが、オンライン研修にすることにより、各教務所に少し大きなモニターがあれば、参加者の他に1教務所50名〜100名聴講することができそうです。

参加者70名、聴講者2,000名以上(単純計算ですが)も可能だと思います。研修チームやる気満々です。「仏教壮年会連盟 綱領」をいつも体の中に入れて「課題(問題点)こそ研修する！」で活動していきます。

※中央研修会の報告書を、仏教連盟ホームページからご覧いただけます。



広報委員会 委員長
北海道教区 伊藤 友一



本年度は、コロナ下での出発となり、評議員の選出が遅れたことにより、この26号が広報委員会の初仕事となりました。

広報委員会は、壮年会の活動を生き生きとしたものに、多くの寺院に新たに仏壮ができるよう、各単位や組、教区等の活動を紹介するために、この機関紙「朋友」や「仏壮の声」(ホームページ)等のツールを使い、皆様の応援いたします。

会員の皆様の自慢したい活動や、課題或いはその解決策など、是非この「朋友」や「仏壮の声」を使い発信していただければと思っています。また、広報委員会でも積極的に取材をしたいと思っています。是非皆様からの情報をいただきたいと思っています。

課題としては、この「朋友」がすべての会員に行き渡っているわけではないこと、ホームページについても、周知され

積極的に活用されている状況ではないことがあげられます。これらの課題を克服すべく、活動して参りたいと思います。どうぞよろしく願っています。

教材委員会 委員長

東北教区 菅野 力也



この度、教材委員長に就任いたしました東北教区の菅野力也です。1期3年間を全力で取り組む覚悟であります。よろしく願っています。

実は、原稿提出締切日ギリギリに執筆中です。2月13日深夜に福島県の中通り・浜通りを中心に、最大震度6強の地震が発生しました。この地震により、自宅の片付けと自身の仕事(建設業)で多忙になり、このような状況に至った次第です。

いいえ。締切日ギリギリまで執筆している原因は、決して地震のせいではありません。執筆を後回しにしてしまった自分自身に他なりません。

『御文章』の一文に「朝には紅顔ありて、夕には白骨となる身なり」とあります。「あたりまえの日常はいつまで続くか分からない、やらねばならないことは先延ばしにしないで、今から始めましょう」と私は解釈します。委員長に就任するにあたり、まずはこのような自分の改善をはかり、教材委員長の活動に寄与していきたいと考えております。

最後になりますが、教材委員会では、「仏壮バッジ」、「おみのり帳」の販売促進を重点項目としておりまして、申込書を仏壮ホームページからダウンロードして、お申し込みいただけます。教区・組・寺院単位で是非、ご購入を検討していただきたいと思います。

『コロナ禍における生き方』

佐藤第二病院院長・龍谷大学客員教授

田畑 たばた

正久 まさひさ



新型コロナウイルス感染症対策の基本は、人間に備わっている自然の治癒力(免疫など)が発揮できるようにすることです。そのためには三食をしっかり食べる、睡眠を十分に取る、適度の運動をすることが基本です。ワクチンは効果が期待できず、副作用も受容できる範囲です。手洗いやマスクの使用など予防の指導には従いましょう。

一旦、感染症になれば、治療は医療の専門家にお任せするのが基本です。医療はよくなる病気は救うことができますが、場合によれば「死」(医療の敗北)ということもあります。感染した場合は「これが私の現実」と素直に受け入れ、「お任せ」できるとき、自然の治癒力は十二分に発揮されるでしょう。

仏教の救いは「二の矢を受けな」といことです。人は、縁(糸

件)次第では病気やケガをします。それは信心の有無に関係なく、縁次第で起こることです。それを「一の矢」と言います。病気を発症するとその症状で種々の苦痛を引き起こします。同時に病気を縁に、順調に改善しないと、それによって仕事のことで、経済的なこと、家庭のことなどで心配が起こってきます。病気が長引くと「ガンではないか」「死ぬ病気ではないか」等の不安、悩み苦しみが起こってきます。それらを「二の矢」と言います。

いろいろ心配すると免疫力に悪い影響を及ぼします。「良くなる、良くならないはお任せします。南無阿弥陀仏」です。仏教は病気を救うのではなく病気の人間を丸ごと救うのが役割です。『仏説無量寿経』には「生死勤苦の本を除く」と働きが示されています。仏教の救いは医療とは質が違ふといことです。病気の

有無に関係なく、日常生活は苦(不安・苦悩)、楽の繰り返しです。生命があれば不安や苦悩は必ずあり、それを除き去れば「生きているということ」が無くなるでしょう。仏教は決して苦悩を除去するための「手段や道具」ではないのです。

あたりまえ、当然、と日常を生きる私たちを、存在そのものの根源に呼び戻すものが「不安」です。不安は私たちの生活や心の中に、思いがけない穴(病気であったり、親しい人の死であったり、他人とのめごと、事業の失敗等によって)がポツカリと開き、そこから冷たい隙間風が吹くようなものです。その穴を埋めることも大切でしょうが、穴が開くまで見えなかったものを穴から見ることが大切なのです。

継続した聞法の歩みで、私の相対分別の無明性が翻されて仏智に順じて生きよう、と姿勢を正される者

は、苦悩や不安に直面して念仏する時、人間存在の深みの真相へ目覚めさせられ、苦悩の背後に寄り添ってくれている法蔵菩薩のご苦勞を知らされるのです。

「念仏となつて私の口から現れてくださる、み仏のはたらき」は、私たちを「いのちの願い」、「存在することの原点」に立ち戻らせて歩ませてくれる勇氣、励ましを与えてくれる教えです。

仏の心に触れる時、不安に左右せられる心が、左右せられざるように変化するでしょう。ここに仏智のはたらき(転悪成善)が展開しているのです。決して苦悩の心が消えてしまうものではありません。世間では不安が無くなるのが安心ですが、仏教では不安のままに安心の世界が開くのです。

「念仏者は無碍の一道なり」と示され、「撰取不捨の利益に…」(歎異抄)と教え導いてくださっています。

親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要記念

第24回 全国仏教壮年大会

仏教壮年会連盟 副理事長

滋賀教区

安居

徹



仏教壮年会連盟の朋友の皆様には長引くコロナ禍の中ですがお元氣でお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの感染拡大が急速に広がり全国的に終息を迎える事がまだまだ難しい状況です。昨年から現在に至るまで我々の仏壮の活動や事業が新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ為に中止を余儀なくされました。3密を避けてリモートでの会議や研修会を行ってまいりました。これらは今まで我々が経験した事のない出来事でした。コロナ禍の中の生活で、『今まで当たり前であった事が本当に尊い事であった』と気づかせていただきました。

さて、仏教壮年会連盟では2023(令和5)年4月15日 本山において、『親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念 第24回全国仏教壮年大会』を『ご縁を慶び、お念仏とともに』のスローガンのもと開催いたします。我々仏教壮年は「仏教壮年会連盟綱領」の精神を遵守して活動を行います。また仏壮の活動だけに捉われず、子ども・若者とのご縁づくりや交流を積極的に行う中で、災害支援活動を通じて各教化団体との連携を図る等、様々な活動を通じて朋友の輪を広げ、御同朋の社会の実現を目指し、朋友に念仏者としての『まことの慶びを伝える』全国仏壮大会にしたいと思っております。

全国から多くの仏教壮年会の朋友が参加される事を願っております。

新 評 議 員

北海道	東北	東京	長野	国府	新潟	富山	高岡	石川	福井	岐阜	東海	滋賀	京都	奈良	大阪	和歌山	兵庫	山陰	四州	備後	安芸	山口	北豊	福岡	大分	佐賀	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄
伊藤 友一	菅野 力也	諏訪 幸夫	中澤 良夫	佐藤 豊和	久保田武志	坂上 幸義	山本 讓治	谷口 寿	夏目健之助	森 久元	種村 美樹	安居 徹	榎本 雅之	田中 彰一	西尾 豪士	森下 将美	戸田 勲	眞野 明政	窪添 司	神田 敏行	沖段 琢磨	国吉 仁	倉石 功	末松 義成	高岡 秀和	久保 幸宏	園田 祥隆	陣内 巧	染川比呂志	内村 玉樹	

お詫びと訂正

機関紙『朋友』第25号3頁の「皆さまへご報告」欄中、高橋哲了先生のご逝去日について、2020(令和2)年6月26日と掲載いたしました。6月25日の誤りでした。訂正するとともに、深くお詫び申し上げます。

編集後記



宮崎教区 染川比呂志

前住職が「ご縁」という言葉をよく使っていた。オンライン会議もひとつの「ご縁」である。全国の人たちと手軽に会議が出来るのは良いことであるが、進行される方の裁量に依存する部分も多く、解決すべき課題も見えてくる。しかし、せっかく頂いた「ご縁」である。皆様と顔を合わせて話したいというのが本音であるが、今しばらくはオンラインでの「ご縁」を楽しもうと思う。

本年度新規単位登録名簿

2020(令和2)年7月1日〜2021(令和3)年3月31日

教区	組	寺	単位会名
新潟	元上	正林寺	正林寺仏教壮年会
新潟	三条	西福寺	西福寺仏教壮年会
高岡	関野	光慶寺	光慶寺仏教壮年会 ※再開
大阪	石川南	仏陀寺	仏陀寺仏教壮年会
山陰	鳥取伯耆	真光寺	真光寺愚道会 ※再開

登録単位数 2,500単位

